

令和 8 年度 事業計画書

社会福祉法人ももやま福祉会

令和 8 年度「社会福祉法人ももやま福祉会」事業計画書

【理 念】

「人として豊かに生きる」

【方針】

○ 経営の安定化

令和 7 年度は、利用者の様々なニーズに対して福祉サービスを提供した結果、資金収支の面では継続して運営の安定化を図れる所までできています。引き続き一つ一つの支援を丁寧に行うことで、収入の安定化を図ります。

○ 設備メンテナンスについて

建物自体も老朽化してきており、定期的なメンテナンスが必要です。さらに建物自体の建て替え工事も視野に入れていかないといけなくなってきています。

引き続き施設整備積立金を毎年積み立てていき、建て替えに備えていきます。また、修理が必要なものについては、優勢順位をつけて順次対応していきます。

○ 職員組織の整備について

事業の安定運営のためにも人材の確保が必要です。求人サイトの活用やホームページの充実、処遇や職場環境の整備に努めます。

また、事業を進めていくうえで、主任職員の下にリーダー職を新設し、主任＝リーダー＝一般職員と、それぞれのチームで協働しながら、より良い支援内容や新たな取り組みをチームで作っていけるような組織づくりを行います。また、様々な経験を積み、いろいろな事業でも活躍できる職員の育成を目指すことで、次世代の人材の育成を図り、継続性のある職員体制を目指します。

○ 給食

業務委託を行っているワーカーズコープと、給食を通じて利用者の生活を守っていくように協力し合いながら、提供を行っていきます。

○ 後援会

後援会を通じて利用者の方からお願いしている施設整備積立金を有効活用し、建物、設備の補修や更新を進めてきます。

活動方針

○ 生活介護事業（ぐんぐんハウス、ぐんぐんハウス柳辻）

大きな変化や急な変更が苦手な利用者の方が多いため、穏やかな時間を過ごしていただける環境づくりを基本に、それぞれの利用者の方に応じた個別的な支援、自発的な行動ができる支援を行っていき、安心できる場所づくりに合わせて、楽しい場所づくりにも取り組んでいきます。そのためにも、その場に応じた判断が自らできたり、自発的に色々な提案ができる職員を育成していく体制づくりを目指します。

すでに取り組みを始めていますが、半日外出の活動を企画し、小集団での外出活動を計画していきます。他にも外出だけとは限らず、班独自の活動（すき班の買い物外出など）を検討していきます。

下請け作業については、本格的に箱折り作業の受注が増えてきていますが、年間計画を見ながら、受注ペースを調整できる人材の育成が必要となってきています。目の前の作業だけでなく、班全体の動きが見られる職員の育成を目指します。

○ 共同生活援助（グループホーム）、短期入所事業（短期入所ぐんぐんハウス、共同生活援助ぐんぐんハウス醍醐、共同生活援助ぐんぐんハウス柳辻）

家族の高齢化など様々な事情により、柳辻グループホームにおいて自宅へ外泊することができない方が増えてきており、利用者増もあったため、利用日数としては順調に伸びてきています。反面、特に週末の配置職員の負担が大きくなっており、合わせて醍醐グループホームの女性職員の確保も厳しい状況が続いています。求人広告だけでなく、複数のチャンネルで職員確保を検討していきます。

活動としては、柳辻グループホームで月に一回、金曜日に食事パーティーを企画しており、利用者の方から好評を得ています。サポートする人員の確保もできなければ実施することが難しいですが、人員の確保ができれば、醍醐グループホームでも、泊まって送り出すことだけでない支援を企画し、支援の楽しさを職員も感じられる取り組みを進めていきます。

支援手順書、個別支援計画書を職員が考えながら作成していくことなどで支援について考える機会を重ねる中で、経験値を増やしていき、支援の質を高めることに取り組み、チームの育成に取り組んでいきます。

短期入所については柳辻の空床が減ってしまったため、充分にご要望にお

応えることが難しい状況となっています。向島の短期入所についても職員の確保が充分ではありませんので、ご要望を伺いながら調整をしていきます。

○ 居宅介護事業（居宅支援事業所ぐんぐんハウス）

平日のグループホームでのサポートが必要な方が増えてきており、必要性が増してきています。合わせて週末にもグループホームにいらっしゃる利用者の方が増えたことで、居宅支援や外出支援の必要性が増加しています。重度支援の必要性も増加してきているため、行動援護サービスの提供開始も行います。

ただ、資格を持った職員が必要なため、人員の確保が難しく、勤務調整も難しい状況が増えてきています。次世代への引き継ぎの体制について、十分な体制ができていないですが、利用者の方と支援者のマッチングの調整も必要なため、支援ができる職員の増加を目指し、経験豊富な職員から業務を引き継いで、サービスの増加に応えていけるような体制づくりを目指します。

○ 計画相談事業

利用サービスが複数にわたり、件数も増えてきており。ご家族の状況もご家族が高齢化してきていることで変わってきています。持病のあるご家族やご家族が入院されるというご相談も増えてきています。ご家族へのケアや相談に対して計画を行うことは引き続き重視していきます。

また、ご利用者についてそれぞれの事業に携わる職員の情報共有できる仕組みづくりがより必要とされてきており、計画相談の事務作業量も増加してきています。書類上のミスがないように気を配りながら取り組みを進めていきます。